

平成30年度 第1回 城南図書館・児童館 連絡協議会
(城南児童館運営審議会) 議事要録

1 開催日時及び場所

平成30年7月3日(火) 10時から

場所:熊本市立城南図書館 多目的室

2 出席委員

15名

尚綱大学・短期大学部 幼児教育学科 准教授

城南子育て支援センター 小木保育園 園長(代理)

熊本市立隈庄小学校 校長

熊本市南区文化協会 会長

舞原自治会 会長

舞原子ども会 会長(代理)

杉上校区主任児童委員・民生委員

火の君スポーツクラブ 会長

隈庄校区青少年健全育成協議会 会長

親育ち支援の会 ポトフ 会長

子育て支援クラブ「キラキラ」 会長

熊本市健康福祉局 子ども未来部 子ども支援課 首席審議員兼課長

熊本市教育委員会事務局 教育総務部 熊本市立図書館 館長

熊本市南区役所 区民部 城南まちづくりセンター 城南公民館 館長

城南図書館管理運営共同企業体 代表

3 議事内容

- 1) 平成30年度事業計画について
- 2) 利用人数等の報告

4 意見交換内容

「城南図書館・城南児童館へ意見等」

■委員A

事業計画を見せてもらったが、子ども達も楽しめる事業だと思う。児童館が地域の中でどのように機能していくのかというところが今後検討していくべきことだと思う。ここ十年で社会の在り方も変わっており、子育ての状況も変わっている。共働き家庭が地域の中でどう生きていくのかということは、これから社会全体で考えていかななくてはいけない。報告で地域外の方の利用が結構多いとの事だが、どう企画運営していき、地域とつながっていくのかというのが今後興味のあるところではある。催し物に参加される家庭は時間的、経済的に余裕があり、教育熱心であるという方が

多い。その為、同じ方が利用してしまい、その幅が広がっていかないというところにつながるのではないかと。ここだけでなく、社会全体がそういうふうになっている。経済的に厳しい方、気持ちや心に余裕がない方が参加できる、その生活の中で糧になるような取り組みを考えてはどうか。例えば夏休みに自由研究・書道・感想文など、子ども達が集まって宿題ができるとか。経済的に厳しい家庭のところは教育力も低下していて学校の宿題ができない、学校も行きたくない、楽しくないという負の連鎖が出てくる。児童館としてケアできるような取り組みがあったらよいと思う。また、小学校独自で取り組んでいるやり方ではなく、専門家のちょっとした助言で大きく変わることもあるので、そういった場としてできたらよい。

■委員B

児童館に孫を連れて遊びに行っているが、入りやすく溶け込みやすい雰囲気、先生達の接し方も優しく、とても良い環境だと思う。センターの職員としてもいろいろな活動、なかよし広場など週一回、図書館・児童館と関わって新しい刺激をもらって、自分の古い知識を出して合わせたい。

■委員C

学校でPTAが読み聞かせを行っているが、子どもは本をととても楽しみにしているという実感がある。業者が5社ほど本の販売をするが、持ってきた本が足りなかったり、前もってパンフレットで本を選んでいく状況。図書館・児童館の方でたくさん工夫されていることはよく分かるし、それをきっかけとして更に子ども達が本を好きになっていく要素はたくさんある。今後も本との出会うきっかけ作りをやっていただくとありがたい。

■委員D

来館者102%増という目標だが、もともと城南図書館・児童館は利用者が多い中、2%増はかなりご苦労されているのではないかと。同時に職員の増加の話があったが、文化協会やスタッフへ声かけしていただき、組織と組織の連携事業をカバーできるならば協力していきたい。年間事業計画を見させてもらったが、図書館・児童館連携事業は併設された上での連携事業でうまく噛み合っており、こういった事業を推進して欲しい。

子育て支援については大きなウェイトを置いていると思う。以前は公園デビューというのがあったが、若いお母さんたちが新しいところに移住された時、公園に行けば仲間がいるだろうというところから公園デビューが始まって、そこからいろいろな知恵を持ち合わせて、「うちの家庭ではこうやっている」とアイデアを出し合い、子育ての力を持っていたと思う。児童館についてもそういった役割も果たされているのではないかと感じた。

学校ではホームルームの時に読書タイムがあり、教員も一緒に子ども達と読書をする。活字というのは自分と向き合う力を持っていて、一日の始まりの中で静かに自分と向き合うことができる。また、教室で生徒と先生がいる中でのコミュニケーション的な会話の中での取り組みで一日がうまくいくというケースがある。本というのは人を育てるという意味での力を持っていると思う。

アウトリーチ事業をやっていると聞いたが、ぜひ進めてほしい。子ども達は部屋の中ではじっとして、先生の言う事はよく聞き、学習もするが、外での遊びとなると自分が何をやっていいのか戸

惑っている。今の子ども達は外で自分を探せないのか、家の中に閉じこもってしまう。外に出ないと対人関係がうまくできない。アウトリーチは対人関係を育てるという意味になると思う。

■委員E

いつもいろいろな計画がされていて感心する。

舞原でも「舞原だより」を出しているのですが、3月の春まつりや夏まつりなど特に大きな行事を行う時、日程が分かれば「舞原だより」に載せてPRしたいと考えている。

【企業体】

日程が決まり次第ご連絡します。

■委員F

なかなか時間がなくて利用したことがなかったが、秋口から高学年向けの事業など参加させたい。地域外からの来館は親御さんと一緒が多いと思うが、近隣の子ども達は自分達で友達と一緒にいる。使い方など含め、ご迷惑をかけていると聞いている。公共施設のルールや使い方などのプリントをもらうが、家庭に届かないこともあるので教えていただけたらそれぞれの各家庭に連絡ができると思う。

■委員G

赤ちゃん訪問に地域担当の民生委員と回っている。第1子が保健師さん、第2子以降を民生委員と訪問している。提供する資料が多いが、説明する時に図書館・児童館の月の計画にマークを入れて差し上げている。「週1回身長体重測定があるので、ここに行かれると便利ですよ」「“はじめの一步”は必ずおいでください」など念を押して伝えるが、震災後は数が減っている。理由は色々あると思うが最近、保育園に預けて働きに出られているので、ご案内しても保育園に行っている。保育園に行ったらしゃべらない方へは“はじめの一步”に来ていただくよう念を押している。おはなしコーナーで司書の読み聞かせや児童厚生員のお話、子育て支援センターの手遊びなどいろんな催し物があるので楽しんで帰っていただけたらと思う。来ていただけない方がいるのは残念。土日に利用が集中するので職員を増やして300人の利用でも対応できるよう希望している。また、なじみの職員の方がいると尋ねやすいので職員が変わらないようお願いしたい。

■委員H

図書館・児童館キャラクターの相乗効果は今から出るのだろう。アウトリーチ事業については、スポーツクラブとの連携ができたと思う。

【企業体】

キャラクターは今年の夏まつりチラシにぬり絵としても使用し、浸透しつつあると感じている。

■委員I

昨年、写経に参加させてもらった。めったにできない体験ができた。

茶つきフットパスを行っているが、今大人の工場見学が結構人気がある。他にも城南には日豊食品さんや五木食品さんがあるので協力依頼をし、フットパスができればおもしろい。

小学校高学年、中学生、高校生の利用が少ない。職場体験をきっかけにその子たちに行事の時などのサポートや、リーダーとして手伝いに来てくれる組織を作れるとよい。

今年も子ども絵画展のご協力をお願いいたします。

■委員J

城南町のボランティア団体で、イベントで託児に参加している。家庭訪問型の子育て支援ということで熊本市の委託事業になり、南区全体で6歳以下のお子さんのご家庭のところを訪問。保健師さんが訪問された中で気になるお母さん、孤立されているお母さんのところへ訪問している。産後うつなどでなかなか外に出て行かれない方々のために訪問し、元気になられたら児童館などの施設を紹介しているが、第一子目の方は初めて行くので、ハードルが高いと感じているので行ったことがない方や、グループに入れたいのではないかとという方に付き添って一緒に行っている。チラシを渡して、情報発信していきたい。

■委員K

自分も今、子育てしており、子育て中のママ達を見ている中で、敷居の高い場所ではなくもっと身近に気楽に来られる場所、駆け込み寺的な存在になればと思う。向上心の高いママ達が子ども達のコミュニケーション力のアップや、幼稚園に入る前の人と慣れる場所として活用されている。向上心の高いママ達にはこれから不安を抱えている人たちに対し、明るい声を掛けられる人になれるような人材作りをしたい。身近な地域の無料の場所を目指してほしい。また、いろいろな取り組みをする中で向上心が上がるような内容が多く、子どもを育てていくにはありがたいが、臨床心理士の学生など、研修がてらに見ていただきたい。隠している部分を見抜けるプロの人やアドバイスをくれる方がいたらよいと思う。教育熱心な方がいる中で、経済的な面などあからさまには出さないが、習い事に出せなくて引け目を感じる方がいたりする。そういう所をサポートできる地域の児童館であってほしい。102%の2%は陰の気持ちを持つ人が出向ける場所、癒される場所、リラックスが出来る場所にできたらと思う。

【企業体】

公共施設ですので敷居はない。誰にも使っていただいて平等利用ができると根底に立ち返った管理運営が必要だと思う。来たことのない方、来てない人がまだいるという現実にも目を向けた広報や声かけをしていくべきだと思う。なるべく来られる方が快適に過ごせる環境を目指し、本年度は職員を増やし、しっかり取り組んでいきたい。図書館と児童館の複合施設なので本との出会いを大切にしていきたいと再確認した。本屋さんが少ないのもっと本を読んでいただく機会、触れる機会を考えていかないといけない。城南図書館は巡回移動図書館を持っていて、市の依頼もあって現在月1回から月2回巡回する準備している。本を貸すだけでなく遊びに来るというプランを持ち、広報をしっかりさせていただくので、お声掛けをお願いしたい。皆様方からのご意見をしっかり受け止めたいと思う。

■委員L

多くの事業をがんばられていると思う。お知らせの仕方をお尋ねしたい。

【企業体】

おたよりを職員の手で定期的に配布することを重視している。また、学校や幼稚園・保育園などへお願いしている。共同してできればと思う。

■委員M

事業を見せてもらったが非常に充実しており、地域だけでなく他からも来られる理由ではないかと思う。行政は数値目標というので厳しいところがあると思う。子どもの貧困からみで子どもの場所をしっかりと支えていく必要がある。難しいところもあるが、皆さん熱心なので地域で支えていただけたらと思う。

■委員N

市民一人当たり読書冊数、10年前の3冊から4.1冊に増えた。本をたくさん読むようになったと思う。子どもの不読率(1ヵ月に1冊も読まない)が小学生のうちは低いが、中学生になると全国よりも高くなっているのが熊本市の状況。小学生のうちに読書の習慣を身に着けて読書の楽しさを味わってほしい。図書館・児童館、一緒になって啓発活動を行ってもらえたらありがたい。

以上